

共助



自助

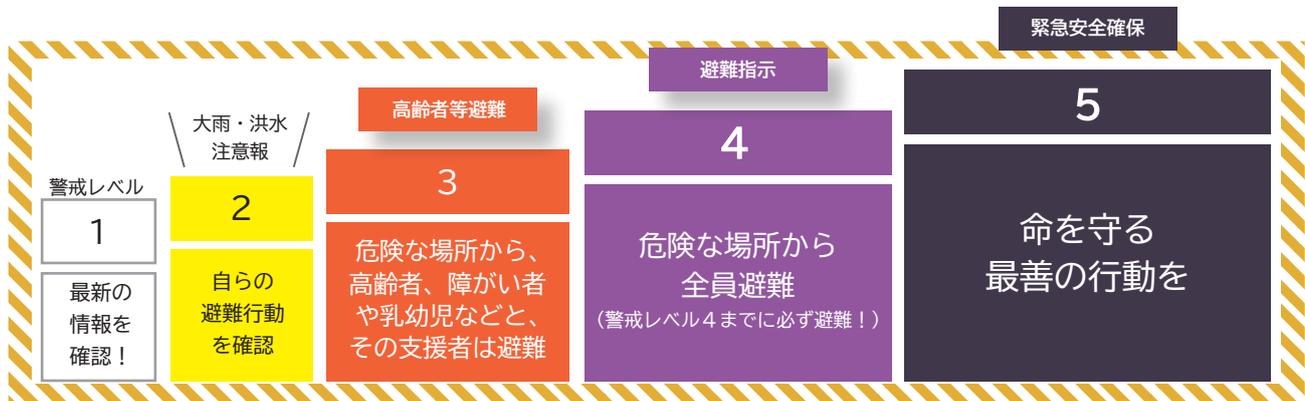
そな

もしもの災害時のために…

あなたに合った「備えかた」を

これから出水期に入ります。避難が必要な大雨が降る可能性もあるほか、いつ大規模な地震が発生するかもわかりません。災害に対しては、ご自身の状況に応じた備えが重要です。いざという時に確実な避難行動が取れるよう、日々の備えを確認してみませんか。

避難のタイミングを確認しましょう！



避難を判断する情報を入手しましょう！

プッシュ型で情報を自動的に受け取りたい方



市公式LINE

友だち登録で通知が届きます。

Yahoo! 防災速報アプリ

防災情報をプッシュ型でお知らせします。

防災ラジオ

室内で情報収集ができます。聞き直しも可能。

緊急速報メール

市内にいる方の携帯電話へ自動配信します。

自分で必要な情報を探したい方



市公式ホームページ

<https://www.city.joso.lg.jp/>

災害時は災害専用サイトに切り替えます。



防災行政無線

放送内容はホームページで確認できます。



気象庁キキクル

気象や地震の危険度分布が確認できます。



避難所の開設・混雑状況を知りたい！



そんなときは、避難所開設・混雑状況可視化サイト VACAN (バカン) へ！

VACAN

VACAN はこちらの二次元コードからご確認いただけます。



非常時の準備はできていますか？

食料・飲料・生活必需品などの備蓄

- 飲料水3日分 (1人1日3ℓ)
- 非常食3日分
- トイレットペーパー
- ティッシュペーパー
- マッチ・ろうそく
- カセットコンロ

※大規模災害時には「1週間分」の備蓄が望ましいとされています。

※飲料水とは別にトイレを流す際的生活用水も必要です。

非常用持ち出しバッグの準備例

- 飲料水、食料品
- 貴重品(現金、身分証明書)
- 常用薬
- ヘルメット、マスク、軍手
- 懐中電灯、ラジオ、電池、充電器
- 衣類、下着、毛布、タオル
- 生理用品、携帯トイレ

※乳児のいるご家庭は、ミルク・紙おむつなども用意しておきましょう。

マイ・タイムラインを作ってみましょう！

マイ・タイムラインは、台風などの災害時に、自分や家族が「いつ」「何をするのか」を事前に時系列で整理してまとめたものです。

備えまでの時間	雨や川の状況	行政から発信される情報	主な備え	備えの例
3日前	台風が発生	早期注意情報が発表される 警戒レベル1	台風の進路情報を調べる	テレビの天気予報を注意する
2日前				
1日前	雨風が強くなる	大雨注意報・洪水注意報 警戒レベル2	避難時に持っていく物を準備する	家族の今後の予定を確認する
半日前	雨が集まり川の水が増える	氾濫注意情報	近隣および上流の雨量を調べ始める	避難しやすい服装に着替える
5時間前	川の水がいっぱいであふれそう	氾濫警戒情報 警戒レベル3	安全な所へ移動を始める	市内の指定避難所への避難を判断
3時間前		氾濫危険情報 警戒レベル4	避難完了	
0時間	川の水が氾濫	氾濫発生情報 警戒レベル5		

作成例



マイ・タイムラインに関する資料は市防災危機管理課にご用意しています！

被災の記憶と、今に活かす防災の力

防災危機管理課 仲林主査インタビュー

平成 27 年の関東・東北豪雨では、市内で甚大な被害が発生しました。当時、県の防災航空隊長として災害対応の最前線に立ちながら、自宅も被災した防災危機管理課仲林主査に、被災時の経験や現在の防災業務への思いを聞きました。

「まさか」の被災、そして家族の安否

「夜中の 1 時頃、県庁から連絡が入りました。『鬼怒川の様子を確認してほしい』と。隊員全員を招集し、つくばヘリポートへ向かったものの、豪雨で飛ぶことはできませんでした」

当時、仲林さんは現役の消防士。茨城県の防災航空室に派遣されており、防災ヘリの出動を判断する責任者として、災害対応に追われていました。

翌日、初動対応を終えて戻ってきた隊員から、思いもよらぬ一言が。「隊長、大変です。自宅が浸水されています」。自宅が被災していた事実を、そのとき初めて知ったといいます。

「家には体が不自由な家族もいました。すぐに避難できる状況ではなかったんです」。水が押し寄せたのは決壊箇所から 10km 以上離れた地域。「まさか、自宅まで水が来るとは思いませんでした。どこかで油断があったと思います」



地域の備えと、共助の難しさ

当時、仲林さんは地元の町内会役員として、防災倉庫の設置を主導したばかりでした。しかし、自宅の備えとなると後手に回ったと振り返ります。「地震には意識が向いていましたが、水害への備蓄や避難経路の確認はほとんどできていなかったんです」

さらに、災害直後に目の当たりにしたのが、地域の共助の難しさでした。「近所で大きな声が飛び交い、泣いている人もいました。原因は、被災ゴミの集積所。悪臭がひどくて、近隣住民が我慢の限界だったんです。共助という言葉はよく聞きますが、それが実際に機能するには、日頃からの顔の見える関係や、要支援者への意識が必要なんだと感じました」



経験を伝え、次の備えへ

仲林さんは今年度から、防災危機管理課で防災士の養成や防災教育に取り組んでいます。

「これまでは“起きてから対応する”災害対応が中心でしたが、今は“起きる前に備える”減災の仕事です」。救助する側から、備えを伝える側へ。仲林さんはその役割を誇りに感じています。

「被災した当時、全国からたくさんの支援をいただきました。義援金、支援物資、そして自衛隊や消防の皆さんの救助活動。それがなかったら、家族は無事ではいられなかったかもしれません」。仲林さんはその感謝を胸に「今度は自分が恩返りする番だ」と、日々防災啓発に力を注いでいます。

「防災に“終わり”はありません。完璧な備えなどないけれど、少しでも備えていれば、助かる命があります。それを伝えていきたいんです」



自主防災組織を結成してみませんか

自主防災組織とは、自らの地域を自らで守るために、地域住民が協力・連携し、災害から身を守ることを目的に結成する組織のことです。普段、火災などが起きたときは、消防をはじめとする防災関係機関が出勤して事態に対応します。しかし、大地震などの災害が発生し、道路が壊れたりすると、すぐに駆けつけてくれるとは限りません。こうした場合、地域住民による初期消火や負傷者の救出、救護、避難誘導などの活動が、被害軽減のために重要になってきます。

これらのような、災害時に地域で自主的に防災活動を行う組織を自主防災組織と呼んでいます。

自主防災組織の活動

災害発生前

- ・防災備蓄品の購入・管理
- ・災害を想定した防災訓練
- ・地域住民への防災啓発



災害発生後

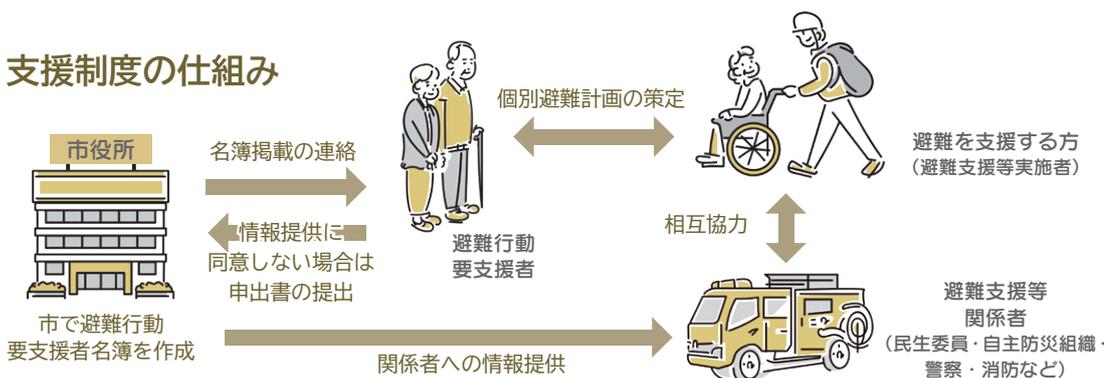
- ・地域住民の安否確認
- ・救出、救護、消火活動
- ・避難誘導、要配慮者支援



避難行動要支援者の支援を推進しています

災害時に多くの命を救うには、自分ひとりで避難したり、情報を得たりすることが難しく、避難に支援が必要な方々（避難行動要支援者）の情報をあらかじめ把握しておくことが重要です。市では、避難行動要支援者の名簿を作成し、一人一人の避難を支援するための計画である、個別避難計画の作成を推進しています。

支援制度の仕組み



最後にチェック！防災クイズ

Q 大雨の時に発表される警戒レベルのうち
全員避難が必要なレベルは？

- A**
レベル3
(高齢者等避難)
- B**
レベル4
(避難指示)
- C**
レベル5
(緊急安全確保)

（答え）
警戒レベルは大雨や台風の際に気象庁や自治体から発表されます。警戒レベル4（避難指示）のうち、全員の危険な場所から避難しましょう。